

# 環状七号線地下広域調節池

東京都が整備を進めている環状七号線地下広域調節池（石神井川区間）は、環状七号線及び目白通りの地下30~40mに延長5.4 kmのトンネル式地下調節池を構築し、すでに稼働している「神田川・環状七号線地下調節池」と「白子川地下調節池」を連結するものです。

この調節池の整備により、総延長13.1 km、総貯留量143万m<sup>3</sup>の国内最大の地下調節池が完成し、時間最大75ミリの降雨に対応した洪水を貯留するとともに、神田川、石神井川、白子川の各流域間で調節池の容量を相互に融通することにより、時間100ミリの局地的かつ短時間の集中豪雨にも効果を発揮する施設となります。

環状七号線地下広域調節池（石神井川区間）  
L=5.4km 貯留量681,000m<sup>3</sup>

神田川・環状七号線地下調節池  
L=4.5km 貯留量540,000m<sup>3</sup>

白子川地下調節池  
L=3.2km 貯留量212,000m<sup>3</sup>

